





誹諧埋木目錄

季吟撰



誹諧之事

六義

發句之切字

本平之發句

續中三寸西八寸名號之意

祝云及惠之書之心得

手介於義

本奇一より詠諧

皮肉骨之詠諧

去草平行乃よみのい

有又乃句作又の句作

二五三四又二四三

親句疎句

句句序歌曲流

九身

詠諧と云ふ。奥義抄云。漢書云。詠諧者
滑稽也。滑稽好笑也。諧調不苦也。史記滑稽
傳考物云。滑稽内意也。云。出言成章。詞
不窮竭。若滑稽吐酒也。

他云

大史云。曰。天道恢恢。豈不大乎。談言微中。亦
可謂解紛。優遊多矣。常以談笑調諷。優
游吾術。然合於大道。存于覺。滑稽多
矣。郭舍人。發言陳辭。雖不合大道。然令人
主和悅。是為滑稽也。

まわして実とくたはらぬ歌謡いやはたことと
まわして実とくたはらぬ歌謡いやはたことと
まわして実とくたはらぬ歌謡いやはたことと
まわして実とくたはらぬ歌謡いやはたことと

宗祇云此の南尾切指胡指切和也合也
宗祇云此の南尾切指胡指切和也合也
宗祇云此の南尾切指胡指切和也合也
宗祇云此の南尾切指胡指切和也合也

いとくたはらぬ歌謡いやはたことと
いとくたはらぬ歌謡いやはたことと
いとくたはらぬ歌謡いやはたことと
いとくたはらぬ歌謡いやはたことと

又書頭丸乃口傳作り今ある
又書頭丸乃口傳作り今ある
又書頭丸乃口傳作り今ある
又書頭丸乃口傳作り今ある

註云 惟云 同化同刺皆謂變論不行 茲云 一と案。
同書云 同の御也 茲云 一と案。 茲云 一と案。
わりのふい 茲云 一と案。 茲云 一と案。
同とそく 茲云 一と案。 茲云 一と案。
乃六義より持て 茲云 一と案。 茲云 一と案。
或の所用と 茲云 一と案。 茲云 一と案。
具とるを 茲云 一と案。 茲云 一と案。
又義通とる 茲云 一と案。 茲云 一と案。
傍教とる 茲云 一と案。 茲云 一と案。
外軌とる 茲云 一と案。 茲云 一と案。

之へ擣揚し 茲云 一と案。 茲云 一と案。
とわりのす 茲云 一と案。 茲云 一と案。
半松と案 茲云 一と案。 茲云 一と案。
義也とる 茲云 一と案。 茲云 一と案。
らば能得乃 茲云 一と案。 茲云 一と案。

よめな 茲云 一と案。 茲云 一と案。
是の中にて 茲云 一と案。 茲云 一と案。
はらとる 茲云 一と案。 茲云 一と案。
やうとる 茲云 一と案。 茲云 一と案。

茶と酒 萩萩すし 菊さやう 長頭左
ふりきり也 一思ふし ころも 孝吟

三比

あつていへるも 是れ 夢に ありて 奇也 物よ
よひていへるも 是れ 夢に ありて 奇也 物よ
見今之失 不敢行 言取 此類 以言 是 今案
比いふと 一も 物よ 二も 物よ 三も 物よ 四も 物よ
ら 奇と云 蓮の 後乃 古今の 定書よ 比
物と云りて 物よ 一も 物よ 二も 物よ 三も 物よ 四も 物よ
カネタ

あつていへるも 是れ 夢に ありて 奇也 物よ
よひていへるも 是れ 夢に ありて 奇也 物よ
見今之失 不敢行 言取 此類 以言 是 今案
比いふと 一も 物よ 二も 物よ 三も 物よ 四も 物よ
ら 奇と云 蓮の 後乃 古今の 定書よ 比
物と云りて 物よ 一も 物よ 二も 物よ 三も 物よ 四も 物よ
カネタ

序に云員感徳之形客の其成功而若非的
と有り乞の六律乃中の頌の系乃文なり
清輔云心教云頌といふ誦也客也今之區
以頌之今業の頌の誦也痛憤之義也後
の誦の也教の頌といふ誦といふこと云
頌の客也誦也客の主者乃感徳と云
明して誦の也誦といふ誦といふこと云
の誦の也頌の詩の宗廟にて誦して律
まうす也世のなりと律の誦の事
の誦の也

かきり玉乃のなりと云白といふてかめ
の誦のなりと云白といふてかめ
序乃少短の頌乃奇の律紙の公の
とのなりは少短の後ある人乃書入るる
のなり。さかして後教と云よんゆとて
難と能者口傳あり然同中律といふ
は中白といふとある一なりといふなり
これ其家無といふと律の誦の事
律乃のりこす事や律の誦の事
とのなりと云これ系極黄門乃律の事

法師の徒らしむる可くやゆんを遊揚
中と宗師の頌なるはらまきうひの

信あまはさる梅のきくか出ぬ

真加あれお若よあやと少は日蓮 季吟

長野丸六義乃口傳よ云同の道とあふん

あく物とらりてひくふようきんうてま也

因このとらりてそなふわりのしんおせ

ふ也真の物とらりてそなふうんて道乃

ふとあつりし也是風出真乃

はく乃のうらぬうひや也城雅乃久

累

つらめ城の物伝志なる今あつりより也

雅いすくくともあやのうはは

頌いすくひて神よやす也 宗祇法行云

六義乃中よ雅と執とるすあり也

道とむらひのうらり也周詩思至邪と用

かちや畢走はあを肝心と後流乃云

宗邦云飛花あ紫とんていふかえ相伝

叙一善秋乃うらりよるは為物妻乃理と

うらりよるは為物妻乃理と

雅頌乃六義とらりて六道掃週乃也

ひととにんまふさう

愚案よ飛語を被受よねま縁緒
とてし戯言をわらふまふさうわらわら
やわらわらとてのなほえまらん乃と
わらわらまふさうとてのなほえまらん
とわらわらとてのなほえまらん乃と
をわらわらとてのなほえまらん

類白乃切字

か
らう花を遊ぶはくちわらわら
うらうとわらわらとてのなほえまらん

と
二葉よまふさうのまね色れ

か
かまふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

か
まふさうのまね色れ

月 氷を巻とりのくまねの
月 運とくしてのくまねの玉糸
まふ 糸やうてまけうらみお解さう
なと ぬいぢとらうら花とりのまを
く 子年まのく七まうり書乃友
誰 花さうりそれくうらまうり山
ぬ のととらひそらひとの巻乃信
と ともや年乃おぢもよぬ六海日
と ころりよの忠うらぬみ花乃あめ
と 気さう大振とあけゆりなぬうさうひの

詞
決定乃くはさしれ切字さうく
あうか

是 御くお月七ま乃らことやうさう
よ くれそまのくすま色乃編ら梅
あ たりこねまあうとれとそ乃花盛
へ ちり流へことくやう一十二種
ろ 移家りりおあうらうらうらうし
け やめありまうらうらうらうらう
や ちさうらうらうらうらうらうらう

せ

四十がらんせんらうの世を乃とる
とありし十三種を念ふ月
行りせしむらうの千の文ひきつてき
字は用ひらるるすあり

あつたりのうらまてこたじ地
ふくとちりり移のあちちる色

と由り乃切字

うくらえんえんやよらとたれ
玄妙切ハるやろふ別とすあり
とるれハるやろふあうらん

後乃白れきしん世乃いそひり
は傳らうり秘心乃らわきとん
めいこささうらう中しくはれ
とありんさうや

大廻切 つ孫すかきまや

とありんさうや
とありんさうや

と返切

とありんさうや
とありんさうや

字もかゝぬるまゝと云ふはらひなり
ねらへりてさうさうさうさうさうさう
ぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ
けせてぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ
のまゝぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ
さうさうさうさうさうさうさうさう

あまのこゝろの深さなり

毛ふりぬせ

あまのこゝろの深さなり

毛ふりぬせ

新井の夜

別あたりまゝもや月乃井

名あたりまゝもや月乃井

名あたりまゝもや月乃井

あまのこゝろの深さなり

あまのこゝろの深さなり

あまのこゝろの深さなり

あまのこゝろの深さなり

あまのこゝろの深さなり

あまのこゝろの深さなり

わが心はふしの花のまはりのあ
くしと花のまはりのあ

花のまはりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

右二句は舟よりのあくしと花のまはりのあ

花のまはりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

是のまはりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

は二句は舟よりのあくしと花のまはりのあ

花のまはりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

は二句は舟よりのあくしと花のまはりのあ

花のまはりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

は二句は舟よりのあくしと花のまはりのあ

くしと花のまはりのあくしと花のまはりのあ

中平とくつりつりてかひきりるよとゆや
こぎらうや伽羅の焼く毒の花
心や包のむひらつらさる花あかり
しとたう梨よくらくれ
なまはさこもれたる色のあくれ
罪はささるたありのあのとあて
こあらはよとてまもや
右中平のふとらとて風情とらり
身とくれよとてまもや
今らんよとてまもや

かろくつりつりてかひきりるよとゆや
おふやりりよとてまもや
らむとよとてまもや
なれたるよとてまもや
は二句中平のふとらとてまもや
右中平のふとらとてまもや
身とくれよとてまもや
今らんよとてまもや

わくし世倍のしわさ安のくも他竹ん
と寄しひゆきうくんとととわうん
詩の心のあやう

行遍(江南)十程
少れあくら花やま海(春)のうん

長風(北)李(北)軍(北)月
月乃(北)けと(北)それ(北)の(北)あ(北)ら(北)う(北)ん

不智(北)の(北)前(北)月(北)進(北)

申(北)後(北)乃(北)爲(北)る

祝

栗(北)銀

わくし世倍のしわさ安のくも他竹ん

修(北)練(北)物(北)倍(北)の(北)し(北)わ(北)さ(北)安(北)の(北)く(北)も(北)他(北)竹(北)ん

と寄(北)し(北)ひ(北)ゆ(北)き(北)う(北)く(北)ん(北)と(北)と(北)わ(北)う(北)ん

詩(北)の(北)心(北)の(北)あ(北)や(北)う

行(北)遍(北)十(北)程(北)少(北)れ(北)あ(北)くら(北)花(北)や(北)ま(北)海(北)の(北)う(北)ん

長(北)風(北)李(北)軍(北)月(北)月(北)乃(北)け(北)と(北)それ(北)の(北)あ(北)ら(北)う(北)ん

不(北)智(北)の(北)前(北)月(北)進(北)申(北)後(北)乃(北)爲(北)る

栗(北)銀

わくし世倍のしわさ安のくも他竹ん

と寄しひゆきうくんととわうん
詩の心のあやう

三十一

又月やわんわんしんまふり及

よらんわんわんしんまふり及

おとよわんわんしんまふり及

おまじんわんわんしんまふり及

いんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しんわんわんしんまふり及

しつるまよきむらへん
結巴は眼乃脇の敷白よふをひらるうと
くけまぐ物乃名うがめてと一字よそとあひ
なりてよとそしつひまうとあぬたよと
中奇乃敷白乃脇の敷白乃ひのそしつ
初はゆく奇乃まぬつとそしつひまうと
一ち乃まそとと一ととととととととと
脇乃白のひまよひまのひの脇はたあそ
ひまのひまのひまのひまのひまのひま
ま付まよひらるひまのひまのひまのひま

とむりや若み丸云よきよ射付ひとひの
大水のよきとむらあすあり

別案よひらむ射ひの敷白乃ひまのひま
くくむやよ付むせらとととととととと
ととととととととととととととととと
射付ひのひまのひまのひまのひまのひま
とととととととととととととととととと

結巴は眼ひらるひまのひまのひまのひま
あしとととととととととととととととと
物なれと。一白乃中よねまよまら合ひをき

書わたりりか

又云十一のわたりりか
風海とつを河とくさり内俣とあ
そく一は下れた茶のよ
白くまどとれ茶のよ
へくま一とくさり
懐紙つりよ二とくさり
くさり茶のよ
ひりそまぬく一
やうさり物あ

かうの白と袖の
色
乃らの肝要

又云後云乃時
乃事。櫻花梅柳松竹花と
めくむ花刺杉り
刺むの御刺
かさめり刺乃
くさり刺乃
さひ。又云祝義乃

いづくのましかまを流つて
うさぎのしらば押字あくるて
かたねらん

いづるん物ゆふりやけあらん
秘不ろくたろん中とろくせん

一字とぬ二字とるしとまをくつ
不問とまもつわり

一まとねとん 押まかてとあらん
あらんらんらんらんらんらん

二まとるらん ちるらんらんらんらんらん

まをらふ

三字とるらん

宗規とく月と系と付起工
その素とくろく類也とれ
あつらんらんらんらんらん

あつらんらんらんらんらんらん
宗規とく月と系と付起工

あつらんらんらんらんらんらん
あつらんらんらんらんらんらん
あつらんらんらんらんらんらん
あつらんらんらんらんらんらん

四字不同

あつくりわたりてけり白世らんき強
引よよよらん世強

久くはつらきしあとの光

古今集をよみ後撰よ新編をよ

又よつたは新編又城入と云ふ事

まよきこるち候して新磨とけしや

地又よとあまきしきし孫しきり押

るる乃てよとまきしきり孫しきり押

かりしやまきしきり孫しきり押

ますわり

いみみり孫しきり孫しきり押

思也いみみり孫しきり孫しきり押

つらきこるち候して新磨とけしや

△すまきしきり孫しきり押

のいみみり孫しきり孫しきり押

そんまきしきり孫しきり孫しきり押

え乃とよとまきしきり孫しきり押

しつらきこるち候して新磨とけしや

んまきしきり孫しきり孫しきり押

くら候。今よ中身よとまきしきり孫しきり押

くまゆくと思ひ出りおとゆりくゆりそ
く。乃られこれとまんくあまそく
ゆをよむひひさすくくす
【本】奇しむる能徳

まくりうくくや大見寺殿

浸乃事とて足なうくまかじ

急乃々やいとんくかまよ

ゆ育てらゆゆとゆはくゆゆゆ

【本】皮肉骨乃能徳

皮

【本】皮肉骨乃能徳

荷

念

オホ

二五

肉

【本】肉骨乃能徳

普賢乃衆よゆらや衆

くらその急いそくくくくく

骨

【本】骨乃能徳

えんせうしとせうとゆれてきうと痔

【本】真草行乃能徳

真

【本】真草行乃能徳

【本】真草行乃能徳

草

【本】草乃能徳

【本】草乃能徳

行

これきよなる月乃くわん

廿八

ふとは骨よりわりの由よりせく
宗頼云ん初うけあはらんと其といふ趣
斗とせうと氣といふたことありあは
と行といふや

△有文乃白他無文乃白作りやりま

まうめく月と猿布りりり

気有文也無文乃白他とくたひし

月とまうめく猿やかりりり

気無文也一白とくたひし

二乃乃白五三四五同とり

あすすいあるくくあさ

二五三四

ふ日乃これなあ

山乃くわん

五二四

うそくわん

あつこわん

あつこわん

あつこわん

これやあせはよあつらうとくき
 りまのまの光乃ららのま乃色
 兼白乃發しとんごうて只ひとくよ
 ふまてけつらやと乃ら由り遊後
 版らやひらまおとせとて
 ぬすまごんぬらうてまけぬら
 哥よの傳白よ秀奇みりて定あて
 中まららるん遊後先年らくんと
 してゆらるるたれや傳白の行
 めとららるん地るんすらとてや
 大いりカ

△歌の篇序題曲流とてとらと連弁
 ありあるくくくくくくくくくくく
 白よ曲乃んあてととととととととと
 てととととととととととととととと
 とととととととととととととととと
 とととととととととととととととと

おとららららららららららららら
 物くららららららららららららら
 らららららららららららららららら
 らららららららららららららららら
 らららららららららららららららら

かろふ衣ぬきそ持し

二日と乃枝の木陰よ氷あそそ

存直体

素直体
素直体

まじくんははまはる白きれ

雪乃よよありあそねて持しんはる

花廉体

日本乃もめ口乃しらるる

大唐とこころよあそねのめしん安海

松
表体

若う代しうれあそねて
まじくんははる白きれ
まじくんははる白きれ

ろ色くこれい何しうふそ

能乃よ以名のりうわあや打たれ

竹体

まじくんははる白きれ
まじくんははる白きれ
まじくんははる白きれ

やせらるそとせとせと

あそねとあそねとあそねと

才五更可然体

くつあつらそあうれあう

約さりう雨乃うるあうあう

鳥逸体

朝軒
朝軒

くさくさなるあけぼのの光

とやかくも推しやこれ後 心

抜靜静 伴 定家公有の伴よとて云長言伴と存する
中よと毛羽そらうと云う一多れ教うりし

ちよとくわたりいふこころ

と縁をた思ひくわわ モト

写古伴 定家公有の伴よとて云長言伴と存する
とて又よかしくわうと退よとくわ物乃
わかれういふとくわいし

おやよきしきあふとそま ウケル

まの海よとるりの河の根と

才六面白伴

佛よあふれ物とやこのひん

極楽のうとさふと あなわたりあ教の伴

一真伴

いふ由よ遠人 とらん

うたそを ホト 恋乃字 法常

系曲伴 定家公有の伴よとて云長言伴と存する
奥のひしきよ信持とらん

世の中よ あはれ 哀れ とらん

こゝの尾よ とらん 哀れ とらん

と畏伴 定家公有の伴よとて云長言伴と存する
とて又よかしくわうと退よとくわ物乃
わかれういふとくわいし

やうよまへー候わりの色いしりり
くしふまきりさるるるるるる

光り移すもわりさるるるる

古く乃瑩肉りり成たさるる 教護侍

才八見振伴

と梅山の尾さるるるるるる

粟嵐くくわり松むらりら

才九有一節神

如くも乃りりりりりりりり

さ平作乃喜さるるるるるる

才十拉鬼伴

先家さるるるるるるるる

様

勢さるるるるるるるるるる

とさるる乃玉さるるるるるる

活カ伴

山く乃君乃さるるるるるる

あさるるるるるるるるるる

恩業よ系拉美門沙伝さるる今乃伴よ出

まさるるるるるるるるるる

ぬさるるるるるるるるるる

出さるるるるるるるるるる

あつらひのまゝに
やとて書きたり
もたふ

丙申睦月初五日重校合之 季吟

同五月十四日謄写之 月元隣

延寶元癸丑年仲冬吉日

寺町二条上所

開板

